

レスリング・全日本大学選手権(フリースタイル)

84kg級で鈴木が初優勝

インカレに続き学生2冠

11月11、12の両日、駒沢体育館で全日本大学レスリング選手権(フリースタイルのみ)が行われ、84kg級で鈴木聖三(経営4・岐阜工高)が初優勝。8月の全日本学生選手権(以下、インカレ)に続き、学生2冠を達成した。

最後の学生大会である、今大会で鈴木は「何としまで守り切った。一気持を切り替え、『このタイトルを取りたい』と強い意気込みで臨んだ。決勝ではインカレ決勝と同じく早大・山口と対戦。第1ピリオドはクリンチからの攻撃で先制。続く第2ピリオドは開始早々1ポイントを奪い、そのリードを最後まで守り切った。『気持ちを取り替え、このタイトルを取りたい』と挑戦者として試合に挑んだ。今年度は、個人では良い結果を残すことができて、大学別対抗得点では昨年の2位から順位を下げ、6位で終えた。

また、96kg級で馬場貴大(経営1・島原高)が敗者復活戦を勝ち上がり、3位入賞。55kg級で半田守(経営2・網野高)が5位となったが、大学別対抗得点では昨年の2位から順位を下げ、6位で終えた。

(大津 智世・経営3)



上位入賞を喜ぶ3人(左から半田、鈴木、馬場) 撮影◎庄司 亮介・文4

ゴルフ・全日本サンスポ女子アマ

荒井が3位入賞

予選勝ち抜いた109選手が出場

全日本サンスポ女子アマゴルフ選手権が11月16、17の両日、静岡カントリッククラブ浜岡コース(パー72)で行われた。予選を勝ち抜いたアマチュア選手109人が出場する中、荒井舞(経営1・沖学園高)が3位に入り、来年のフジサンケイレディースクラシックのマナートーナメント出場権を手にした。

初日、2日目とともに74ストロークの安定したスコアで回ったものの、



▲ 安定したプレーで入賞した荒井(信夫杯で)

マンデーターナメントへの出場権獲得

フジサンケイレディースクラシック

「アンダーパーでラウンドする」という目標を持っていたので、内容は満足できません」と自分を厳しく評価。トップと1打差のホールアウトにも悔しさをにじませた。

マンデーターナメントはシード権を持たないプロ選手と、アマチュア枠で出場する選手が本戦出場をかけて戦う予選会。プロ選手とのラウンドを「勉強になります」と謙虚に答える一方、「勝って、本戦に出場したいで

残した。(等井 規史・商2) す」と力強いコメントを(写真も)

フェンシング・全日本学生個人選手権

女子フルーレで佐賀が3位入賞

全日本学生個人フェンシング選手権が10月20日から24日まで、京都府大山崎町体育館で行われ、上位6人が全日本選手権(12月17、20、山口県岩国総合体育館)の出場権を獲得する。

専大選手の成績が伸び悩んだ中、女子フルーレ個人で佐賀美咲(文3・聖霊女子短期大付高)が3位に入る活躍をみせ、全日本選手権の出



場権を手にした。関東大学選手権の同種目では成績が振るわなかったが、今大会を振り返り、「昨年の4位よりも順位を上げることができてうれしい」と話す一



▲ 学生最後の大会で結果を残した高

高が女子シングルス3位

卓球・全日本学生選抜卓球選手権

全日本学生選抜卓球選手権が11月20、21の両日、横浜文化体育館で行われ、高瑜瑤(商4・秀光中等教育学校)が女子シングルスで3位入賞を果たした。

高は予選リーグ全勝で決勝トーナメントへ駒を進めた。1回戦、準々決勝と順調に勝ち上がった

方、「力の差を埋めて、来年はもっと上を目指したい」と、先を見据えたコメントを残した。また、2年連続となる全日本選手権に向け、「この大会は自分よりも格上

の選手ばかりだが、昨年よりも良い成績を残したい」と意気込みを語った。(青木 宏平・経営1) 撮影◎等井

が、迎えた準決勝で、今大会優勝の淑徳大・松澤と対戦し、0-4でストレート負けを喫した。続く3位決定戦では、激しい点の取り合いとなったが、フルセットの末、早大・中島に勝利した。

「守りに入ってしまった、強気になれなかった。試合前はベスト4を目標としていたが、やはり優勝

アジア大会で専大勢活躍

中国の広州で行われたアジア大会で馬術部OBの根岸淳さんが総合馬場が銅、バスケ部で三谷藍さんが(平13経)が銅メダルを獲得するなど専大勢が活躍した。

中国の広州で行われたアジア大会で馬術部OBの根岸淳さんが総合馬場が銅、バスケ部で三谷藍さんが(平13経)が銅メダルを獲得するなど専大勢が活躍した。

サッカー・関東大学リーグ戦(2部)

16勝挙げリーグ優勝

抜群の攻撃力と華麗なパスワーク



▲ シュートを放つ神村

関東大学サッカーリーグ優勝を遂げ、1年で1部復帰を決めた。

高山薫(経営4・生田東高)、神村奨(ネット情報4・相武台高)が12得点でランキングのトップに立った。ベストイレブンにはFWの高山、神村、DFの藤本修司(法

4・駿台学園高)の3人が、新人賞にはDFの本名正太郎(商1・新栄高)が選出された。

全22試合で56得点を奪い、抜群の攻撃力と華麗なパスワークで終始、リーグの1位を快走。他校の追従を許さなかった。

源平貴久監督は「1部復帰という目標が達成できて良かった。敗戦のなかには、引き分けに持ち込めたはずの試合がいくつかあったので、そういう面での粘り強さが今後の課題」と語った。また来季の目標として「まず1部残留。その上で観客を楽しませるような魅せるサッカーを目指す」と掲げた。来シーズンのサッカー部に要注目の村、DFの藤本修司(法

専大スポ

No.297

6、7面に「箱根駅伝」特集

来季は1部復帰

専大スポーWeb (http://sensupo.web.c2.com) からログインしてご確認ください